

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	柔道Ⅲ		
必修選択	必修	(学則表記)	柔道Ⅲ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	柔整科	2	64
使用教材				出版社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	柔道整復師として柔道を正しく理解する。 健全な身体の育成及び礼節をわきまえた人格を形成することを目的とする。				
到達目標	柔道整復師として柔道を正しく行うことができる。 健全な身体の育成及び礼節をわきまえた人格を形成している。				
評価基準	定期試験 100%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が3以上の者				
関連資格	柔道整復師				
関連科目	全て				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	渡辺 弘三	実務経験	○		
実務内容	柔道整復師。ケアマネージャー。国立療養所リハビリテーション部勤務を経て、整骨院を開業。その後、柔道整復師養成校の教員を歴任。柔道七段。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	基礎動作	柔道小史、受身、組み方、移動法、体捌き、崩し
2	基礎動作	柔道小史、受身、組み方、移動法、体捌き、崩し
3	対人動作（投げ技）	出足払、膝車、支釣込足
4	対人動作（投げ技）	膝車
5	対人動作（投げ技）	支釣込足
6	対人動作（投げ技）	浮き落とし

7	対人動作（投げ技）	背負投
8	対人動作（投げ技）	肩車
9	対人動作（投げ技）	浮腰
10	対人動作（投げ技）	払腰
11	対人動作（投げ技）	釣込腰
12	対人動作（投げ技）	送り足払
13	対人動作（投げ技）	支釣込腰
14	対人動作（投げ技）	内股
15	総復習	前期振り返り
16	試験後授業	振り返り
17	応用動作及び対人動作	投の形、打ち込み、投げ込み、乱取り
18	応用動作及び対人動作	投の形、打ち込み、投げ込み、乱取り
19	応用動作及び対人動作	投の形、打ち込み、投げ込み、乱取り
20	応用動作及び対人動作	投の形、打ち込み、投げ込み、乱取り
21	応用動作及び対人動作	投の形、打ち込み、投げ込み、乱取り
22	応用動作及び対人動作	投の形、打ち込み、投げ込み、乱取り
23	応用動作及び対人動作	投の形、打ち込み、投げ込み、乱取り
24	応用動作及び対人動作	投の形、打ち込み、投げ込み、乱取り
25	応用動作及び対人動作	投の形、打ち込み、投げ込み、乱取り

26	応用動作及び対人動作	投の形、打ち込み、投げ込み、乱取り
27	応用動作及び対人動作	投の形、打ち込み、投げ込み、乱取り
28	応用動作及び対人動作	投の形、打ち込み、投げ込み、乱取り
29	応用動作及び対人動作	投の形、打ち込み、投げ込み、乱取り
30	応用動作及び対人動作	投の形、打ち込み、投げ込み、乱取り
31	応用動作及び対人動作	投の形、打ち込み、投げ込み、乱取り
32	試験後授業	振り返り

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	柔道整復術の適応		
必修選択	必修	(学則表記)	柔道整復術の適応		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	柔整科	2	32
使用教材	医療の中の柔道整復		出版社	南江堂	

科目の基礎情報②

授業のねらい	柔道整復師として必要な非観血療法の限界点について学ぶ。				
到達目標	柔道整復師国家試験合格				
評価基準	定期テスト 100%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上である者 成績評価が3以上の者				
関連資格	柔道整復師				
関連科目	全て				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	伊藤 雄人	実務経験	○		
実務内容	医療法人スポキチクリニック医師。日本整形外科学会 整形外科専門医、日本整形外科学会 運動器リハビリテーション医、日本体育協会公認 スポーツ医				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	観血療法について	観血療法の適応、メリット、デメリットなどについて学ぶ
2	観血療法について	観血療法の適応、メリット、デメリットなどについて学ぶ
3	保存療法について	非観血療法の適応、メリット、デメリットなどについて学ぶ
4	保存療法について	非観血療法の適応、メリット、デメリットなどについて学ぶ
5	上肢の疾患について	上肢の各疾患について学ぶ
6	上肢の疾患について	上肢の各疾患について学ぶ

7	上肢の疾患について	上肢の各疾患について学ぶ
8	上肢の疾患について	上肢の各疾患について学ぶ
9	下肢の疾患について	下肢の各疾患について学ぶ
10	下肢の疾患について	下肢の各疾患について学ぶ
11	下肢の疾患について	下肢の各疾患について学ぶ
12	下肢の疾患について	下肢の各疾患について学ぶ
13	頭部、体幹の疾患について	頭部、体幹の各疾患について学ぶ
14	頭部、体幹の疾患について	頭部、体幹の各疾患について学ぶ
15	その他の疾患との関連性について	その他の疾患との関連性について学ぶ
16	試験後授業	解答、解説

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	社会保障制度		
必修選択	必修	(学則表記)	社会保障制度		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	柔整科		1 16
使用教材	社会保障制度と柔道整復師の職業倫理		出版社	医歯薬出版株式会社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	柔道整復師に関する社会保障制度について学ぶ。				
到達目標	柔道整復師国家試験合格				
評価基準	定期テスト 100%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上である者 成績評価が3以上の者				
関連資格	柔道整復師				
関連科目	全て				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	萩原 和香奈	実務経験	○		
実務内容	柔道整復師・はり師・きゅう師の免許を取得し、整骨院にて勤務後、柔道整復師専科教員の資格を所有し、柔道整復師養成校の教員を歴任。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	社会福祉	児童福祉
2	社会福祉	母子・寡婦福祉
3	社会福祉	高齢者福祉
4	社会福祉	障害者福祉
5	公的扶助	生活保護
6	公的扶助	生活保護

7	公的扶助	生活福祉資金貸付制度
8	医療保険	医療保険制度
9	医療保険	国民医療費
10	医療保険	特定健康診査・特定保健指導
11	医療保険	健康増進事業
12	労働保険	労働者災害補償保険
13	労働保険	労働者災害補償保険
14	労働保険	雇用保険
15	試験前授業	まとめ、復習
16	試験後授業	解答、解説

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	臨床柔道整復学 A		
必修選択	必修	(学則表記)	臨床柔道整復学 A		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	柔整科	8	128
使用教材	施術の適応と医用画像の理解 等		出版社	南江堂	

科目の基礎情報②

授業のねらい	柔道整復師として必要な物理療法の知識、機器の取り扱い方法を学ぶ。 臨床的な観点から柔道整復の適応する外傷について学ぶ。 超音波画像診断による損傷状態の把握能力を養う。				
到達目標	柔道整復師として必要な物理療法の知識、機器の取り扱い方法を説明できる。 臨床的な観点から柔道整復の適応する外傷について説明できる。 超音波画像診断による損傷状態の把握能力を養っている。				
評価基準	定期テスト 100%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上である者 成績評価が3以上の者				
関連資格	柔道整復師				
関連科目	全て				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	齊藤 桂治/旭岡 健斗	実務経験	○		
実務内容	齊藤 桂治：柔道整復師、はり師、きゅう師として整骨院院長を務める傍ら、柔道整復師養成校の教員を歴任。北海道柔道整復師会。旭岡 健斗：柔道整復師。札幌スポーツ&メディカル専門学校併設院 みらい整骨院 院長。北海道柔道整復師会所属。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	物理療法機器等の取扱い	電気療法
2	物理療法機器等の取扱い	電気療法、寒冷療法
3	物理療法機器等の取扱い	寒冷療法
4	物理療法機器等の取扱い	光線療法

5	物理療法機器等の取扱い	光線療法、温熱療法
6	物理療法機器等の取扱い	温熱療法
7	物理療法機器等の取扱い	牽引療法
8	物理療法機器等の取扱い、柔道整復術適応の臨床的判定（医用画像の理解を含む）	牽引療法、非観血療法の限界点
9	柔道整復術適応の臨床的判定（医用画像の理解を含む）	非観血療法の限界点、画像診断
10	柔道整復術適応の臨床的判定（医用画像の理解を含む）	画像診断
11	柔道整復術適応の臨床的判定（医用画像の理解を含む）	上肢の疾患
12	柔道整復術適応の臨床的判定（医用画像の理解を含む）	上肢の疾患
13	柔道整復術適応の臨床的判定（医用画像の理解を含む）	下肢の疾患
14	柔道整復術適応の臨床的判定（医用画像の理解を含む）	下肢の疾患
15	柔道整復術適応の臨床的判定（医用画像の理解を含む）	頭部、体幹の疾患
16	試験後授業	解答、解説
17	柔道整復学を中心に関連する他の教科の演習および講義等を総合的に行う。	問題演習
18	柔道整復学を中心に関連する他の教科の演習および講義等を総合的に行う。	問題演習
19	柔道整復学を中心に関連する他の教科の演習および講義等を総合的に行う。	問題演習
20	柔道整復学を中心に関連する他の教科の演習および講義等を総合的に行う。	問題演習

21	柔道整復学を中心に関連する他の教科の演習および講義等を総合的に行う。	問題演習
22	柔道整復学を中心に関連する他の教科の演習および講義等を総合的に行う。	問題演習
23	柔道整復学を中心に関連する他の教科の演習および講義等を総合的に行う。	問題演習
24	柔道整復学を中心に関連する他の教科の演習および講義等を総合的に行う。	問題演習
25	柔道整復学を中心に関連する他の教科の演習および講義等を総合的に行う。	問題演習
26	柔道整復学を中心に関連する他の教科の演習および講義等を総合的に行う。	問題演習
27	柔道整復学を中心に関連する他の教科の演習および講義等を総合的に行う。	問題演習
28	柔道整復学を中心に関連する他の教科の演習および講義等を総合的に行う。	問題演習
29	柔道整復学を中心に関連する他の教科の演習および講義等を総合的に行う。	問題演習
30	柔道整復学を中心に関連する他の教科の演習および講義等を総合的に行う。	問題演習
31	柔道整復学を中心に関連する他の教科の演習および講義等を総合的に行う。	問題演習
32	試験後授業	解答、解説

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	臨床柔道整復学B		
必修選択	必修	(学則表記)	臨床柔道整復学B		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	柔整科	10	160
使用教材				出版社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	柔道整復学のみならず他の教科を交えながら国家試験に合格できる総合的学力を身につける事を目的とする。				
到達目標	柔道整復学のみならず他の教科を交えながら国家試験に合格できる総合的学力が身についている。				
評価基準	定期テスト 100%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上である者 成績評価が3以上の者				
関連資格	柔道整復師				
関連科目	全て				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	高橋 大樹/小向 啓介	実務経験	○		
実務内容	高橋 大樹：柔道整復師として整骨院院長を務める傍ら、柔道整復師養成校の教員を歴任。日本柔道整復師会所属。 小向 啓介：柔道整復師の免許を取得し、整形外科にて勤務後、自身で整骨院を開業。その後、柔道整復師専科教員の資格を所有し、学校教育に携わる。柔道二段。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	柔道整復学を中心に関連する他の教科の演習および講義等を総合的に行う。	問題演習
2	柔道整復学を中心に関連する他の教科の演習および講義等を総合的に行う。	問題演習
3	柔道整復学を中心に関連する他の教科の演習および講義等を総合的に行う。	問題演習
4	柔道整復学を中心に関連する他の教科の演習および講義等を総合的に行う。	問題演習

5	柔道整復学を中心に関連する他の教科の演習および講義等を総合的に行う。	問題演習
6	柔道整復学を中心に関連する他の教科の演習および講義等を総合的に行う。	問題演習
7	柔道整復学を中心に関連する他の教科の演習および講義等を総合的に行う。	問題演習
8	柔道整復学を中心に関連する他の教科の演習および講義等を総合的に行う。	問題演習
9	柔道整復学を中心に関連する他の教科の演習および講義等を総合的に行う。	問題演習
10	柔道整復学を中心に関連する他の教科の演習および講義等を総合的に行う。	問題演習
11	柔道整復学を中心に関連する他の教科の演習および講義等を総合的に行う。	問題演習
12	柔道整復学を中心に関連する他の教科の演習および講義等を総合的に行う。	問題演習
13	柔道整復学を中心に関連する他の教科の演習および講義等を総合的に行う。	問題演習
14	柔道整復学を中心に関連する他の教科の演習および講義等を総合的に行う。	問題演習
15	柔道整復学を中心に関連する他の教科の演習および講義等を総合的に行う。	問題演習
16	試験後授業	解答、解説
17	柔道整復学を中心に関連する他の教科の演習および講義等を総合的に行う。	問題演習

18	柔道整復学を中心に関連する他の教科の演習および講義等を総合的に行う。	問題演習
19	柔道整復学を中心に関連する他の教科の演習および講義等を総合的に行う。	問題演習
20	柔道整復学を中心に関連する他の教科の演習および講義等を総合的に行う。	問題演習
21	柔道整復学を中心に関連する他の教科の演習および講義等を総合的に行う。	問題演習
22	柔道整復学を中心に関連する他の教科の演習および講義等を総合的に行う。	問題演習
23	柔道整復学を中心に関連する他の教科の演習および講義等を総合的に行う。	問題演習
24	柔道整復学を中心に関連する他の教科の演習および講義等を総合的に行う。	問題演習
25	柔道整復学を中心に関連する他の教科の演習および講義等を総合的に行う。	問題演習
26	柔道整復学を中心に関連する他の教科の演習および講義等を総合的に行う。	問題演習
27	柔道整復学を中心に関連する他の教科の演習および講義等を総合的に行う。	問題演習
28	柔道整復学を中心に関連する他の教科の演習および講義等を総合的に行う。	問題演習
29	柔道整復学を中心に関連する他の教科の演習および講義等を総合的に行う。	問題演習
30	柔道整復学を中心に関連する他の教科の演習および講義等を総合的に行う。	問題演習

31	柔道整復学を中心に関連する他の教科の演習および講義等を総合的に行う。	問題演習
32	試験後授業	解答、解説

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	柔道整復実技Ⅲ		
必修選択	必修	(学則表記)	柔道整復実技Ⅲ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	柔整科		128
使用教材	柔道整復学・実技編 等		出版社	南江堂	

科目の基礎情報②

授業のねらい	外傷の整復・固定の実技を学び、実践的な柔道整復学の知識を理解する。 1、2年次で学んだ内容の総復習を行い、理解する。				
到達目標	外傷の整復・固定の実技を学び、実践的な柔道整復学の知識を説明できる。 1、2年次で学んだ内容を説明できる。				
評価基準	定期テスト 100%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上である者 成績評価が3以上の者				
関連資格	柔道整復師				
関連科目	全て				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	齊藤 桂治/林 公子	実務経験	○		
実務内容	齊藤 桂治：柔道整復師、はり師、きゅう師として整骨院院長を務める傍ら、柔道整復師養成校の教員を歴任。北海道柔道整復師会。 林 公子：専門学校卒業後、整骨院で勤務。柔道整復師専科教員免許を取得し、柔道整復師養成校の教員を歴任。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	整復時の注意点について	目的、合併症、全身状態など
2	整復時の注意点について、基本整復法	目的、合併症、全身状態など、牽引直達整復法
3	基本整復法	牽引直達整復法、屈曲整復法
4	基本整復法	屈曲整復法、介達牽引法
5	基本整復法、上肢の骨折	介達牽引法、鎖骨骨折

6	上肢の骨折	鎖骨骨折
7	上肢の骨折	外科頸骨折
8	上肢の骨折	外科頸骨折、コーレス骨折
9	上肢の骨折	コーレス骨折
10	上肢の脱臼	肩鎖関節脱臼
11	上肢の脱臼	肩鎖関節脱臼、肩関節脱臼
12	上肢の脱臼	肩関節脱臼
13	上肢の脱臼	肘関節脱臼
14	上肢の脱臼	肘関節脱臼。肘内障
15	上肢の脱臼、総復習	肘内障、学んだ内容の復習を行う
16	試験後授業	解答、解説
17	総復習	学んだ内容の復習を行う
18	総復習	学んだ内容の復習を行う
19	総復習	学んだ内容の復習を行う
20	総復習	学んだ内容の復習を行う
21	総復習	学んだ内容の復習を行う
22	総復習	学んだ内容の復習を行う
23	総復習	学んだ内容の復習を行う
24	総復習	学んだ内容の復習を行う

25	総復習	学んだ内容の復習を行う
26	総復習	学んだ内容の復習を行う
27	総復習	学んだ内容の復習を行う
28	総復習	学んだ内容の復習を行う
29	総復習	学んだ内容の復習を行う
30	総復習	学んだ内容の復習を行う
31	総復習	学んだ内容の復習を行う
32	試験後授業	解答、解説

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	柔道整復実技Ⅳ		
必修選択	必修	(学則表記)	柔道整復実技Ⅳ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	柔整科		128
使用教材	柔道整復学・実技編 等		出版社	南江堂	

科目の基礎情報②

授業のねらい	外傷の整復・固定の実技を学び、実践的な柔道整復学の知識を理解する。 1、2年次で学んだ内容の総復習を行い、理解する。				
到達目標	外傷の整復・固定の実技を学び、実践的な柔道整復学の知識を説明できる。 1、2年次で学んだ内容を説明できる。				
評価基準	定期テスト 100%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上である者 成績評価が3以上の者				
関連資格	柔道整復師				
関連科目	全て				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	大山 ちあき／江夏 岳晋／林 公子		実務経験	○	
実務内容	大山 ちあき：鍼灸師、柔道整復師の免許を取得し、整骨院にて勤務後、柔道整復師専科教員の資格を取得し、学校教育に携わる。江夏 岳晋：柔道整復師、はり師、きゅう師として勤務した後、独立開業。鍼灸整骨院の院長を務める傍ら、柔道整復師専科教員資格を取得し学校教育にも携わる。林 公子：専門学校卒業後、整骨院で勤務。柔道整復師専科教員免許を取得し、柔道整復師養成校の教員を歴任。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	骨折の固定	鎖骨骨折
2	骨折の固定	上腕骨骨幹部骨折
3	骨折の固定	コーレス骨折
4	骨折の固定	第5中手骨頸部骨折
5	骨折の固定	下腿骨骨幹部骨折

6	骨折の固定	肋骨骨折
7	脱臼の固定	肩鎖関節上方脱臼
8	脱臼の固定	肩関節前方脱臼
9	脱臼の固定	肘関節後方脱臼
10	脱臼の固定	手第2指PIP関節背側脱臼
11	軟部組織損傷の固定	アキレス腱断裂
12	軟部組織損傷の固定	足関節外側靭帯損傷（局所副子固定）
13	軟部組織損傷の固定	膝関節内側側副靭帯損傷
14	軟部組織損傷の固定	足関節外側靭帯損傷（バスケットウィーブ固定）
15	軟部組織損傷の固定	足関節外側靭帯損傷（フィギュアエイト・ヒールロックテープ固定）
16	試験後授業	解答、解説
17	総復習	学んだ内容の復習を行う
18	総復習	学んだ内容の復習を行う
19	総復習	学んだ内容の復習を行う
20	総復習	学んだ内容の復習を行う
21	総復習	学んだ内容の復習を行う
22	総復習	学んだ内容の復習を行う
23	総復習	学んだ内容の復習を行う
24	総復習	学んだ内容の復習を行う

25	総復習	学んだ内容の復習を行う
26	総復習	学んだ内容の復習を行う
27	総復習	学んだ内容の復習を行う
28	総復習	学んだ内容の復習を行う
29	総復習	学んだ内容の復習を行う
30	総復習	学んだ内容の復習を行う
31	総復習	学んだ内容の復習を行う
32	試験後授業	解答、解説

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	柔道整復実技 V		
必修選択	必修	(学則表記)	柔道整復実技 V		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	柔整科		128
使用教材	柔道整復学・実技編 等		出版社	南江堂	

科目の基礎情報②

授業のねらい	外傷の軟部組織損傷の実技を学び、実践的な柔道整復学の知識を理解する。 1、2年次で学んだ内容の総復習を行い、理解する。				
到達目標	外傷の軟部組織損傷の実技を学び、実践的な柔道整復学の知識を説明できる。 1、2年次で学んだ内容を説明できる。				
評価基準	定期テスト 100%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上である者 成績評価が3以上の者				
関連資格	柔道整復師				
関連科目	全て				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	渡辺 弘三/加藤 雄大	実務経験	○		
実務内容	渡辺 弘三：柔道整復師。ケアマネージャー。国立療養所リハビリテーション部勤務を経て、整骨院を開業。その後、柔道整復師養成校の教員を歴任。柔道七段。加藤 雄大：専門学校卒業後、柔道整復師として整骨院、整形外科で勤めた後、柔道整復師専科教員の資格を取得し、学校教育に携わる。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	上肢の軟部組織損傷	腱板損傷
2	上肢の軟部組織損傷	腱板損傷、上腕二頭筋損傷
3	上肢の軟部組織損傷	上腕二頭筋損傷
4	下肢の軟部組織損傷	大腿部肉離れ
5	下肢の軟部組織損傷	大腿部肉離れ、膝側副靭帯損傷

6	下肢の軟部組織損傷	膝側副靭帯損傷
7	下肢の軟部組織損傷	膝十字靭帯損傷
8	下肢の軟部組織損傷	膝十字靭帯損傷、膝半月板損傷
9	下肢の軟部組織損傷	膝半月板損傷
10	下肢の軟部組織損傷	腓腹筋損傷
11	下肢の軟部組織損傷	腓腹筋損傷、アキレス腱断裂
12	下肢の軟部組織損傷	アキレス腱断裂
13	下肢の軟部組織損傷	足関節外側靭帯損傷
14	下肢の軟部組織損傷、総復習	足関節外側靭帯損傷、学んだ内容の総復習を行う
15	総復習	学んだ内容の総復習を行う
16	試験後授業	解答、解説
17	総復習	学んだ内容の総復習を行う
18	総復習	学んだ内容の総復習を行う
19	総復習	学んだ内容の総復習を行う
20	総復習	学んだ内容の総復習を行う
21	総復習	学んだ内容の総復習を行う
22	総復習	学んだ内容の総復習を行う
23	総復習	学んだ内容の総復習を行う
24	総復習	学んだ内容の総復習を行う

25	総復習	学んだ内容の総復習を行う
26	総復習	学んだ内容の総復習を行う
27	総復習	学んだ内容の総復習を行う
28	総復習	学んだ内容の総復習を行う
29	総復習	学んだ内容の総復習を行う
30	総復習	学んだ内容の総復習を行う
31	総復習	学んだ内容の総復習を行う
32	試験後授業	解答、解説

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実習	科目名	臨床実習Ⅲ		
必修選択	必修	(学則表記)	臨床実習Ⅲ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	柔整科		90
使用教材				出版社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	1,2年次で行われた臨床実習で学んだ内容を復習し、理解する。				
到達目標	1,2年次で行われた臨床実習で学んだ内容を説明できる。				
評価基準	実習への参加姿勢や実習参加日数、提出レポート等を考慮して決定する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が3以上の者				
関連資格	柔道整復師				
関連科目	全て				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	海野 幸司／萩原 知秋	実務経験	○		
実務内容	海野 幸司：柔道整復師、はり師、きゅう師として整骨院院長を務める傍ら、柔道整復師養成校の教員を歴任。北海道柔道整復師会、北海道鍼灸師会所属。萩原 知秋：柔道整復師・はり師・きゅう師の免許を取得し、整骨院にて勤務後、柔道整復師専科教員の資格を所有し、柔道整復師養成校の教員を歴任。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	臨床実習	実習の心得、検査法、測定法、整復法、後療法の見学、各種機械の見学など
2	臨床実習	実習の心得、検査法、測定法、整復法、後療法の見学、各種機械の見学など
3	臨床実習	実習の心得、検査法、測定法、整復法、後療法の見学、各種機械の見学など
4	臨床実習	実習の心得、検査法、測定法、整復法、後療法の見学、各種機械の見学など
5	臨床実習	実習の心得、検査法、測定法、整復法、後療法の見学、各種機械の見学など

6	臨床実習	実習の心得、検査法、測定法、整復法、後療法の見学、各種機械の見学など
7	臨床実習	実習の心得、検査法、測定法、整復法、後療法の見学、各種機械の見学など
8	臨床実習	実習の心得、検査法、測定法、整復法、後療法の見学、各種機械の見学など
9	臨床実習	実習の心得、検査法、測定法、整復法、後療法の見学、各種機械の見学など
10	臨床実習	実習の心得、検査法、測定法、整復法、後療法の見学、各種機械の見学など
11	臨床実習	実習の心得、検査法、測定法、整復法、後療法の見学、各種機械の見学など
12	臨床実習	実習の心得、検査法、測定法、整復法、後療法の見学、各種機械の見学など
13	臨床実習	実習の心得、検査法、測定法、整復法、後療法の見学、各種機械の見学など
14	臨床実習	実習の心得、検査法、測定法、整復法、後療法の見学、各種機械の見学など
15	臨床実習	実習の心得、検査法、測定法、整復法、後療法の見学、各種機械の見学など
16	臨床実習	実習の心得、検査法、測定法、整復法、後療法の見学、各種機械の見学など
17	臨床実習	実習の心得、検査法、測定法、整復法、後療法の見学、各種機械の見学など
18	臨床実習	実習の心得、検査法、測定法、整復法、後療法の見学、各種機械の見学など
19	臨床実習	実習の心得、検査法、測定法、整復法、後療法の見学、各種機械の見学など
20	臨床実習	実習の心得、検査法、測定法、整復法、後療法の見学、各種機械の見学など
21	臨床実習	実習の心得、検査法、測定法、整復法、後療法の見学、各種機械の見学など
22	臨床実習	実習の心得、検査法、測定法、整復法、後療法の見学、各種機械の見学など
23	臨床実習	実習の心得、検査法、測定法、整復法、後療法の見学、各種機械の見学など
24	臨床実習	実習の心得、検査法、測定法、整復法、後療法の見学、各種機械の見学など

25	臨床実習	実習の心得、検査法、測定法、整復法、後療法の見学、各種機械の見学など
26	臨床実習	実習の心得、検査法、測定法、整復法、後療法の見学、各種機械の見学など
27	臨床実習	実習の心得、検査法、測定法、整復法、後療法の見学、各種機械の見学など
28	臨床実習	実習の心得、検査法、測定法、整復法、後療法の見学、各種機械の見学など
29	臨床実習	実習の心得、検査法、測定法、整復法、後療法の見学、各種機械の見学など
30	臨床実習	実習の心得、検査法、測定法、整復法、後療法の見学、各種機械の見学など